

議会
だより

たなぐら



～決意新たに～

提出議案	2
町の考えを問う 一般質問	5
議員研修報告	11
村上市議会表敬訪問	11

発行責任者／議長 大堀 守 編集／棚倉町議会広報編集常任委員会
〒963-6192 福島県東白川郡棚倉町大字棚倉字中居野33
☎0247-33-7882 FAX0247-33-3715

URL: <http://www.town.tanagura.fukushima.jp/>
e-mail: gikai@town.tanagura.fukushima.jp/

議場見学

社川小学校6年生



1月22日、社川小学校6年生児童27人が議場見学に訪れました。議会の仕組みや役割などについて説明を受けながら、議場の雰囲気を感じていました。



3月定例議会日程のお知らせ（予定）

※正式日程は、3月上旬開催予定の議会運営委員会にて協議されます。

3月8日(火) 開会 本会議	3月9日(水) 本会議 委員会	3月10日(木) 一般質問	3月11日(金) ～14日(月) 休会
3月15日(火) 特別委員会	3月16日(水) 特別委員会	3月17日(木) 休会	3月18日(金) 本会議 閉会

議会を傍聴してみませんか？

次回の3月定例会は、町の新年度の予算の審議を行う重要な議会となります。
あなたの目や耳で確かめ、町政に参加しませんか。
傍聴の手続は、役場庁舎3階の傍聴席入口で住所と名前を書くだけで、どなたでも傍聴できます。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。
昨年12月の選挙を経て、新たなメンバーで広報誌の作成を担当することになりました。
広報誌のコンクールで表彰された物などを参考にしながら、内容を充実させ、読みやすい、読んでみたくなる広報誌づくりに取り組みたいです。
ICTなど情報化の時代ですので、ネット発信やフェイスブックなどにも取り組んでいかなければならないと思います。
また、新たな企画などにも取り組みたいと思いますので、ご感想などをいただければ幸いです。

広報編集常任委員会

委員長 藤田 智之

広報編集常任委員会

委員長	藤田 智之
副委員長	鈴木 政夫
委員	藤田 光子
委員	菊池 忠二
委員	近藤 正光

マイナンバー制度に関する条例ほか

12月定例会は、12月22日から25日までの4日間の会期で開催されました。
町税や国民健康保険などの予算の補正に加え、マイナンバーカードを利用するための条例など、12議案を原案どおり可決しました。

棚倉町印鑑の登録及び証明に関する条例の一部改正



マイナンバーカードを印鑑登録証として利用できるようになります。

棚倉町個人番号の利用等に関する条例

12345 0000

社会保障、税、災害対策分野の事務に関連し、町が独自に利用する事務を追加できます。

棚倉町住民基本台帳カードの利用に関する条例を廃止する条例



自動交付機での証明書の交付は、平成28年2月末で終了します。

マイナンバーカードは身分証明証として使えるほか、印鑑登録証やコンビニ交付などに利用できるようになります。



自立支援給付障害児通所支援事業費



放課後等デイサービス、児童発達支援の利用増による補正増

720万円

保育所運営費



保育単価の増額による補正増

3,257万7千円

農業用施設災害復旧費



補助農業用施設災害復旧費
1,106万8千円
単独農業用施設災害復旧費
1,237万3千円

道路環境整備事業費



除雪費などの増額による補正増

790万円

棚倉町課設置条例



課の名前と役割が変わります。

棚倉町公の施設の指定管理者の指定について



ルネサンス棚倉の施設を「株式会社ルネサンス棚倉」に管理を行わせるための指定です。

～補正予算～ 議案の質疑討論

【佐川議員】
定住自立圏連携事業費の減額の理由は。
【企画情報課長】
白河地域定住自立圏の負担金事業として計上していたが、今年に共生ビジョンを作ったことが無いということ、婚活事業の1事業の実施だけなので、当初から減額した。

【藤田議員】
子育て世帯臨時特例給付金、児童手当費が減額されている理由は。
【健康福祉課長】
子育て世帯臨時特例給付金は、今年度の支給件数が当初の見込みを下回ったため、児童手当も当初見込みを下回った。要因としては、転出、出生数の減少と思われる。

【鈴木議員】
ルネサンス棚倉費の施設維持管理費の内容は。
【商工農林課長】
修繕工事として7件を予定、大きなものではテニスコート内のレストハウスのトイレ改修、パルテノン周辺での漏水修繕工事等である。

【鈴木議員】
住宅維持管理費の減額は、現状を見ると減額をするような状況ではないのでは。
【建設課長】
歳入の社会資本整備総合交付金の国の配分が減額されたため、歳入に見合う減額をし、次年度に工事を計画する。

【佐川議員】
保育所運営費が増額になっているが、内訳は。
【健康福祉課長】
保育単価が前年度より1割程度、増額になったため。

陳情
◎「要望書」
提出者 棚倉商工会 会長 立石 誠
◎「公立小中学校の教職員数の充実・確保のための意見書の提出を求める陳情書」
提出者 福島県教職員組合 中央執行委員長 角田政志

12月補正予算の状況 (1万円未満切り捨て)

会計名	補正額	補正後の予算額	
一般会計	1億3,281万円	73億712万円	
特別会計	国民健康保険	60万円	18億3,002万円
	簡易水道事業	△999万円	7,982万円
	公共下水道事業	212万円	2億4,445万円
	農業集落排水事業	36万円	7667万円
事業会計	収益的収入	169万円	4億3,476万円
	収益的支出	390万円	3億9,354万円

問 田楽橋周辺の町道改修が進まないのはなぜなのか
答 地権者の要望に金額を示し交渉中だが合意に至っていない



問 田楽橋周辺の町道改修が進んでいないが、その要因は何なのか、早急に妥協できる見通しは。
町長 地権者から提示されている要望に対して、金額を提示して交渉しているが、合意に達していない。

問 境界が決まっていない中で、どんな交渉をしているのか。
町長 地権者からの要望は、当該道路に接している全部の土地を購入してほしいとの要望である。
問 以上の経過を見れば、地権者の要望に沿った解決をすべきではないか。
町長 長年の地権者に対する心労にお詫びしながら、早期に解決するよう進めていきたい。



問 町内全域を対象にした巡回バスの運行は地域全体を見渡した総合的な公共交通ネットワークの形成に取り組んでいきたい
答 町内でも高齢化は例外なく進んでいるが、町内全域を対象とした交通対策として、巡回バスの運行を検討すべきである。また現在、交通弱者と言われる人の数、交通空白地区と言われる集落はどのくらいあるのか。
町長 交通弱者と言われる人は、平成25年度のアンケート調査で1,127人のうち222人が公共交通機関等に頼らざるを得ない、という結果が出ている。

問 学校給食の無料化の実施は現在のところ考えていない
答 行政機関、公共交通運営会社、タクシー会社、県南建設事務所、福島運輸局の職員、地域住民、学識経験者等で、総数26名となっており、調査期間は28年3月までとなっている。

問 原形復旧とは、地権者が町道部分を使用しているとの疑念のもとに送ったのか。
町長 その当時の判断でその通り送付している。

問 その後、境界ははっきりしたのか。
町長 現在もはっきりしていない。

問 町地域公共交通網形成計画の策定に取り組んでいるとのことだが、その内容は。
企画情報課長 計画の策定のため、協議会を組織したが、そのメンバーは

問 学校給食費の無料化は、全県的にも郡内の自治体でも取組んでいる問題であり、わが町でも実施すべき。
町長 長期に亘る財源のみとおしを十分考慮した上で、今後の政策を考える。

問 給食は教育の一部ではないか。給食の指導は、大きな意味を占めているが、教育的汎用からは外れていると思う。
教育長

問 城跡の多面的な活用について問う

答 国指定、史跡許可後に整備計画を検討

問 棚倉に生まれ育った人にとつて城跡は大事なシンボル。スポーツ少年団の利用や、その他の整備が結果として町に人影を増やすと思うが、追加投資の計画があるか。

町長 棚倉城跡は現在国指定の史跡を指して取り組みを進めており、整備計画については指定を受けた後に検討して行く。

問 図書館跡地の真ん中に有る植栽はなぜ撤去しないのか。
根っこまで抜いてしまうと、遺跡の破壊行為になってしまう為。



城跡公園の植栽

問 介護支援、認知症対策を問う
平成27年4月から介護予防事業の参加者にたなちゃんポイントを付与している

問 白河市ではいきいき長寿ポイント事業が実施されている。自分が将来施設等の入所時に優先ポイントとして利用出来る様な事業が出来ないか。

町長 今後は高齢者サポーターや認知症サポーターの方々にも、いきいき健康たなちゃんポイントの付与を検討して行く。

問 かなりの心痛が伴っている認知症の介護家族の家族同士が相談出来る様な環境づくりについて。

町長 11月に高齢者介護に関わる方や感心の有る方が集い交流、情報交換を目的に、町民の自主団体である家族介護者の会「亀楽の会」が発足した。この会や、認知

症の家族介護者の方々の支援もして行く。

問 町当局の工事発注のその後の資料調達や工事請負に付いて問う

答 工事発注行為は地方自治法、又は関係法令等に基づき、低コスト最大効果、地産地消、県の共通仕様書の観点から執行している

問 町民も一生懸命働いての納税なので、その一部の執行について、有効にそして、町の経済活性化に繋がる様な指導を求める。

課長 地方公共団体における調達はその財源が税金なので、より多くのエリアからの調達、更に地域活性化の観点から、地元企業が受注し地域経済に貢献する事も踏まえ今後も入札の際に業者に要請なども実施して行く。



きくち ちゅうじ 菊池 忠二

問 棚倉町中心市街地活性化計画に付いて問う

答 住みやすい町づくりの中でコンパクト化は考えて行かなければならない

問 棚倉幼稚園の3歳児保育事業に付いて問う

答 応募は32名(定員25名)キャリア教育を意欲し子育て支援事業に沿って現場の教職員、さらに保護者の意見も踏まえ他町村の事例も参考にしながら期待に応えたい



棚倉町立 棚倉幼稚園

問 県道山本不動線整備は

答 現地の状況を確認し、対応について検討

問 現在中ノ内地区は、側溝の整備が施工中だがこの工事区間と完成時期は。

町長 棚倉土木事務所を確認したところ、工事区間は中山下集会所付近より山本不動尊方面へ向かって右側の区間390メートルで平成26年度に工事に着工し完成は平成29年度の予定であるとの回答である。

問 薬師堂から高瀬区間の道路整備について。

町長 県南建設事務所との平成27年度の事業調整会議の中で、当該区間の線形改良について要望しており、その後の状況については現地の状況を確認し対応方法について検討するとの回答なので今後も引き続き要望していく。
課長 詳細の回答は、来年の月上旬に県南建設事務所から町長に報告があるので、状況を踏まえた後に再度要望していきたい。



カーブの多い薬師堂-高瀬区間

問 応急危険度判定の制度と判定士の状況について
被災後の人命にかかわる二次被害を防止することを目的として実施される

問 棚倉町に登録されている判定士は何人いるのか。
町長 認定は福島県知事が行い、23名が棚倉町の住所で登録されている。

問 現在の人数で、大規模災害時に対応できるのか。

問 町道段河内平塩線の整備について
答 実施計画の中で検討していきたい



わち ひろよし 和知 裕喜

問 小山田から大内入り口までの道路整備で現在山口地区が施工中だが、完成時期は。

町長 戸中大岩平辺地に係る公共的施設の総合整備計画に基づき施工、平成23年度に着工し完成年度は平成29年度の計画。

問 居伝金入り口より小山田までの道路整備が必要と考えるが道路整備計画と坂下橋の拡張整備の計画があるか。

町長 現在実施している小山田から大内入口間での道路整備が完了した後に、引き続き当該区間の整備等の整備が進められるよう、戸中大岩平辺地に係る公共施設の総合計画や、社会資本整備総合交付金などの財源を確保すべく関係機関と事前に協議をしながら、実施計画の中で検討していきたい。

問 高齢者（交通弱者）に対する公共バスの運行は地域の特性に応じた総合的な公共交通ネットワークサービスを構築

問 町内公共交通網形成計画策定の内容は。
町長 地域公共交通の課題やまちづくりとの連絡を踏まえて、新たな公共交通サービスの実行実施計画を検討するもので、今年度末までに策定する。

問 策定後の実施については。
町長 協議会において方向性が示された段階で、まずは実証運行を実施し、本格実行に向けていきたい。

問 地域公共バス、目的運行バス、タクシーの運行及びタクシー券発行の考えは。
町長 地域の特性に応じた多様な交通サービスの組み合わせを構築していきたい。

問 近隣市町村の実態については。
町長 東西白河及び石川郡地方の市町村において、実施形態はそれぞれ異なるが、実施5、実証実験1、検討4の自治体数となっている。



地域を結ぶJRバス

問 今後スクールバスや福祉バス等との併用は考えられないか。
町長 協議会へ提案し、十分検討していただく。

問 公共バス等の運行によって、既存の関連業者の事業の支障にならぬよう調整するのか。
町長 十分踏まえながら、計画の策定をする。

問 県産材の利用促進に向けた木材利用方針の策定は。
町長 平成25年度に町木材利用基本方針を制定

問 内容は。

町長 内容は、①町内における公共建築物等の木造化、木質化の推進、②間伐材等木材利用の促進、③木質バイオマス利用の調査研究、④町民への普及啓発である。

問 実績と今後の方向性は。
町長 ルネサンス棚倉のホテルの床、ホール、棚倉幼稚園舎、図書館等に使用している。今後も引き続き利用し、木造化、木質化を推進する。



木の温もりが際立つ図書館内部

問 排水設備設置工事助成金要綱の改正は。
町長 接続助成金の交付は接続率及び稼働率向上に有効

問 助成期限について、平成28年度末日となっているが、どうなのか。
町長 2年間の接続状況を見ながら継続等を検討するため、期限を設けたものである。

問 今回の改正では、4年目以降助成金0円だったものが、3万円を助成すると改められた。知らない町民が多い。どのような周知方法をしたのか。
町長 町のホームページと工事関係団体を通して周知した。

問 実施計画について来年度の目玉事業は何か

- ① 棚倉保育園の新築支援
- ② 社川、近津幼稚園改修
- ③ 育児用品購入費助成
- ④ 新築住宅支援事業等

問 福島大学との相互有効協力協定を問う 地域社会の発展と人材育成を推進していくため 協定を締結

問 具体的にはどのような協力を考えているのか。
町長 相互の人的・知的資源の交流を図り、国立大学法人福島大学と棚倉町が包括的な連携のもと教育・文化・福祉・地域産業・まちづくり等の分野において協力し地域社会の発展と人材育成を推進していくため、協定を締結した。

問 これまでの事務事業の支援に加え、協定書に掲げたさまざまな分野について連携・協力を進めていく。
町長 平成28年2月に今回の協定締結の記念事業として、町民一人一人が健康づくりの取り組みを目指していくための地域活性化フォーラムを開催予定。

問 町民はどのように参加するのか。
町長 町民の方々が自由に、自主的に参加するものであると考えている。

問 締結の時期、期間は。

町長 11月4日締結。この協定における有効期間は、協定締結の日から平成30年3月31日までとなっており、異議がなければ、3年ごとに更新。

問 観光への取り組みについて

町長 大型キャンペーンに、取り組むとともに、他町村と連携した観光事業に取り組んでいく。

問 アフターDCCへの取組みは。

町長 つつくしま観光プロモーション推進機構や、県南DCC推進協議会が行う広域的な事業を中心にこの大型キャンペーンに取り組みとともに、他町村と連携した観光事業に取り組んでいく。

問 東北の小京都として観光客をどのように誘致していく考えなのか。

町長 本町は、棚倉藩初代藩主である立花宗茂公などを介して京都の大徳寺と縁があり、また、八槻都々別神社の短冊は、京都の聖護院の道興住職の残したものであり、現在県の重要文化財に指定をされている。

問 このほか、京都にゆかりの神社仏閣が多く存在する。これらのことから、先日、全国京都会議に加入をしたところであるが、今後、ハードの整備をしていくということではなく、現存する豊富な歴史・文化資源を生かすこれらを前面に出した観光誘客を図っていく。

問 外国人観光客の誘致はどのように考えているのか。

町長 ニーズを調査確認しながら、民間や関係団体の観光誘客を支援していく。

問 玉室和尚の草庵の跡地整備について

町長 内容を検討しながら対応



玉室和尚の草庵跡の碑

問 石碑に向かう上がり口の排水路の整備を考えられないか。現在のところ整備は考えていない。

問 玉室和尚の石碑に向かう通路の整備は考えられないか。今後、内容を検討しながら対応していきたい。



さ がわ ゆういち 佐川 裕一



ふる いくわ やす ひさ 古市 泰久

議員の研修会報告

全国町村議会広報研修会

○平成27年10月20日～21日……シェンバツハ・サポー（東京都）

福島県町村議会議員研修会

○平成27年10月22日……ビッグパレットふくしま（郡山市）

現地視察

○平成27年10月22日



高野小でのICT授業参観



仮置き場の整備状況視察

村上市議会表敬訪問

内藤家ゆかりの地棚倉町へ

平成27年10月26日から27日の2日間、新潟県村上市議会が棚倉町に表敬訪問に来られました。

26日は棚倉町役場内において意見交換会が行われ、終了後、棚倉町役場生涯学習課学芸員の案内で内藤家ゆかりの馬場都々別神社、蓮家寺、長久寺を訪問し、ルネサンス棚倉において町議会議員と懇親を深めました。



一ツ松高義元議員の一般質問の記事は、本人の希望により掲載を辞退しました。

問 老朽化した街路灯の更新は 答 状況に応じた対応が必要

問 老朽化した街路灯の更新や防犯灯への切り替え、LED化にどの様に取り組みか。町で整備した街路灯の追加整備の考えはあるか。防犯カメラの設置も必要ではないか。

町長 街路灯の電気料の半分を町が負担しているが、所有が個人や管理組合など様々なので老朽化による更新については状況に応じた対応が必要である。街路灯を自ら撤去しての防犯灯の設置は、事例もあり可能である。



老朽化の進む街路灯

の設置を進めたい。

問 グラウンドへの階段 の改修は

答 安全性を考慮して検討

問 総合体育館のグラウンドへの通路等の改修を公園も含め総合的に検討してはどうか。

教育長 現在階段が2か所あるが、段差があるため高齢者等は不便であるので、安全性を考慮しながら

ら改修を検討したい。森林環境交付金での木製ベンチの設置も予定している。公園は遊具を撤去し跡地を体育館で管理している、整備については今後検討したい。



整備が待たれる階段

問 認知症初期支援チームの設置は

答 郡内町村と協働して厚生病院の協力で進める

問 認知症対策にどの様に取り組むか。初期支援チームの設置や家庭への支援はどの様に進めるか。

町長 介護認定などにより約260名程度と把握しているが、今後ますます増えるものと認識している。初期対応が重要であり、国よりの義務付けもあるので初期支援チームの設置を、郡内町村と共同で厚生病院の協力のもと平成29年度に予定している。現在、家族介護教室の開催などの支援も行っているが、有効な認知症ケアの手法の情報もあるので、紹介し負担軽減に努めたい。

問 認知症についての相談、対応などの冊子も早急にするべきではないか。

健康福祉課長 今後検討し作成したい。地域包括センターを窓口相談も受けていきたい。



藤田 智之